



REAL RACING

8月17日(土)(予選/14時30分時点)

天候:晴

コースコンディション:ドライ

気温:38°C 路面温度:49°C

2019年8月18日(日)栃木県・ツインリンクもてぎで2019年シリーズ第5戦の全日本スーパーフォーミュラ選手権が開催された。

前戦終了後に梅雨が明け、猛暑が続いていた日本列島。内陸部にあるツインリンクもてぎで開催された今大会は、例年シリーズの中で最も気温が高いと想定されるレースであり、また台風10号が通過後の開催となったため更なる暑さの中で開催されることとなった。

予選日は朝から照り付ける太陽に気温はどんどん上昇していき、予選開始時刻となる14時30分になると路面温度が49°Cとなった。

20台から12台に絞られる予選Q1セッションがスタートすると、#17 塚越広大もミディアムタイヤを装着しコースインした。コース状況を確認しながら前半のアタックに入った塚越は3周目に1'35.919というタイムを計測すると、後半セッションの為にマシンを一度ピットに戻す。チームスタッフによりマシンの微調整が行われ、2セット目のタイヤを装着した塚越は、セッション残り時間7分というところで後半のアタックに入るため再度コースインする。そしてウォームアップラップを経てフルアタックに入ったが、20番手タイムでQ1セッションを終了することとなり、残念ながらQ2への進出は叶わず、翌日のスターティンググリッドを20位から出走することとした。

8月18日(日)(決勝/14時15時点)

天候:晴

コースコンディション:ドライ

気温:37°C 路面温度:49°C

8月18日(日)決勝日。予選日と同様に湿度の高い厳しい暑さの中、第5戦の決勝日を迎えたリアルレーシングは、予選結果から気持ちを切り替えて52周となる決勝レースに挑んだ。14時15分となりフォーメーションラップがスタート。塚越はソフトタイヤを装着しフォーメーションラップへと向かったが、このフォーメーションラップ中に他チーム複数の車両にエンジンストールが発生し赤旗が掲出される。そして赤旗掲出でスタートディレイとなった決勝レースの周回数は1周減算され、51周で決勝レースが争われることとなった。



REAL RACING

14時20分から再度フォーメーションラップがスタートし51週のレースが開始。クリーンスタートで数台をパスした塚越は、オープニングラップを終了すると12番手まで順位を上げる。その翌周にはさらに2台の車両をパスして10位まで浮上。オープニングラップから他チームのピット作業が入り乱れる中、7位を走行していた塚越は20周目にピット作業に入った。タイヤを再度ソフトタイヤに交換し、給油作業を終えてピットアウトした。11番手でマシンをコースに戻すと22周目にはベストタイムとなる1'35.772を叩き出す。その後もソフトタイヤでの追い上げを図るべく気迫の走り続けた塚越は26周目に9番手、27周目には8番手に順位を上げた。

多くのチームが規定のピット作業を終えたのは38周目。その時8番手で猛追を続けていた塚越は翌39周目に規定上必須となるミディアムタイヤへの交換を行うためにピット作業に入った。給油とタイヤ交換を終えてピットアウトし、17番手でマシンをコースに戻し走行することとなる。その後、ミディアムタイヤでの苦しい戦いを続けることとなり、46周目に悔しくもソフトタイヤ車両の猛追を受けパスされる18番手となる。残された周回で諦めずに走行を続け、そのまま51週の周回を終えて18位でチェッカーを受ける結果となった。

猛暑となった気候とコース状況含めて、マシンにも、ドライバーにも、そしてスタッフにも大変厳しい戦いとなりました。そして、今回もよい結果を皆さまご報告することが叶いませんでした。今シーズンは残り2大会となります。毎戦の悔しさをバネに何度となく帯を締め直し戦い続けたここまでの5大会。残りの2大会は流れをがっちりと掴み、前半の悔しさを払拭させる走りで結果を残すべく戦って参ります。